

## 平成30年度第2回香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会

- 総合戦略の取り組み状況  
及び 進捗状況シート

H30年度具体的施策

(赤字)地方創生推進交付金関連事業

【基本目標1】魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する

【足腰を強め、「地力」を高める】

- (1) 農業の振興
① 農業生産基盤の充実
② 治水・利水整備の促進
③ 担い手対策の促進
④ 農産物ブランド化の推進と加工品の開発
⑤ 消費者の安全安心志向への対応
⑥ 中山間農地の保全と活用の促進
(2) 林業の振興
① 森林の多面的な利活用の促進
② 森林の活用(木質バイオマス利用促進)
(3) 水産業の振興
① 漁港の改修・整備等の推進
② 漁業経営の基盤強化
③ 漁場の保全
④ 観光漁業の推進
⑤ 水産加工品流通販売の推進
(4) 農業・水産業における加工・流通・販売体制の強化
① 地産地消の推進
② 加工・流通・販売などの体制を強化

【分野を超えた産業間の連携を強化する】

- (1) 6次産業化による地産地商の徹底
① 地産地商の拠点(直売所)の機能拡充
② 地域内での創意工夫によるコミュニティビジネスの支援
(2) 観光拠点形成とネットワーク構築
① 資源の再発見(価値化・付加価値化)
② 観光・交流の場づくり(地域住民参加)
③ 観光旅行会社(企画)とのタイアップによる複数観光ルートの構築
④ 物部川流域3市での観光振興
(3) 産業人材の育成・確保
① 雇用支援、企業支援のための情報発信、情報入手の場(拠点)の整備

【新たな産業づくりに挑戦する】

- (1) 商工業の振興
① 企業誘致の促進
② 既存企業の育成・支援
③ 魅力ある商業地・商店街づくり

【基本目標2】新しい人の流れをつくる

【移住・定住促進のためのしくみづくり】

- ① 「香南市を知って、好きになってもらう」魅力、多様な情報の発信
② 若年層の交流・情報交換やイベント開催
③ 産官学連携、人材育成による暮らしと産業が調和した自立地域への支援
④ 移住促進

【基本目標3】若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

【人生をトータルでサポートする体制づくり】

- ① ライフステージに応じた切れ目ない支援
② 若者の出会いの場づくり

【子ども、子育て支援・環境の充実支援】

- ① 子育てを支える地域の育成
② 子育て施策の充実
③ 多様な保育事業・放課後児童クラブの拡充

【基本目標4】時代に合った地域をつくり、地域の連携により安心な暮らしをまもる

【協働のまちづくり推進】

- ① 住民組織との情報交換
② 地域活動の支援体制強化

【交流人口拡大】

- ① 集落活動センター(小さな拠点整備)
② 地域団体の活動促進、支援充実
③ 歴史・食・体験等による交流人口の拡大

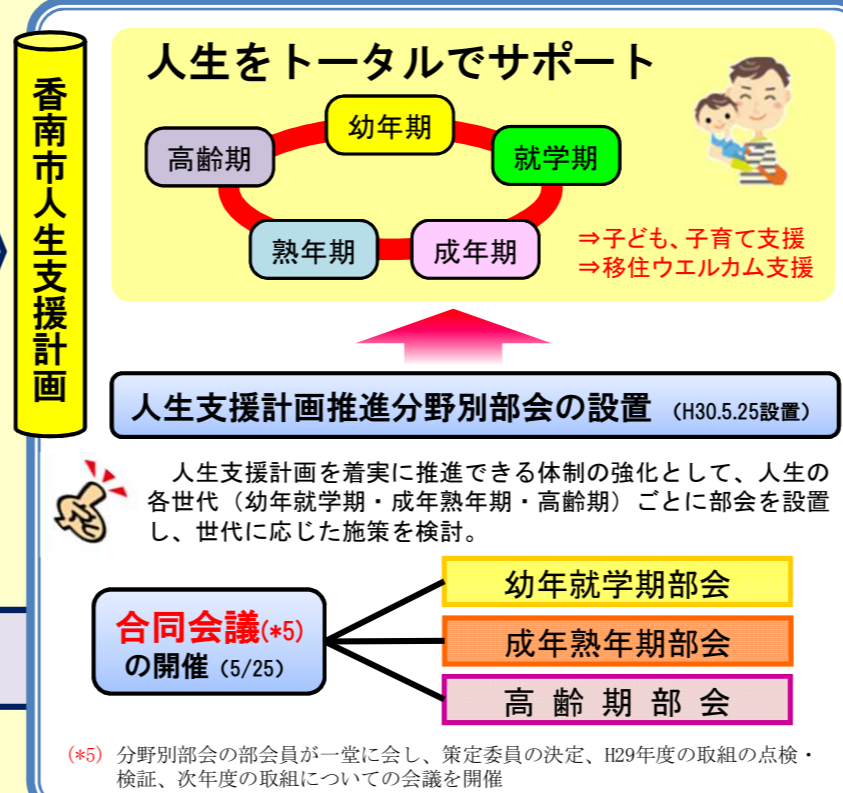
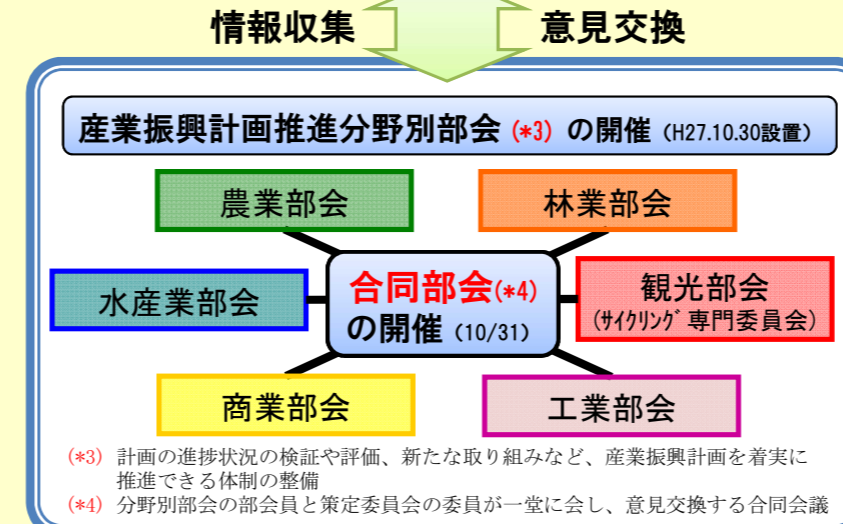
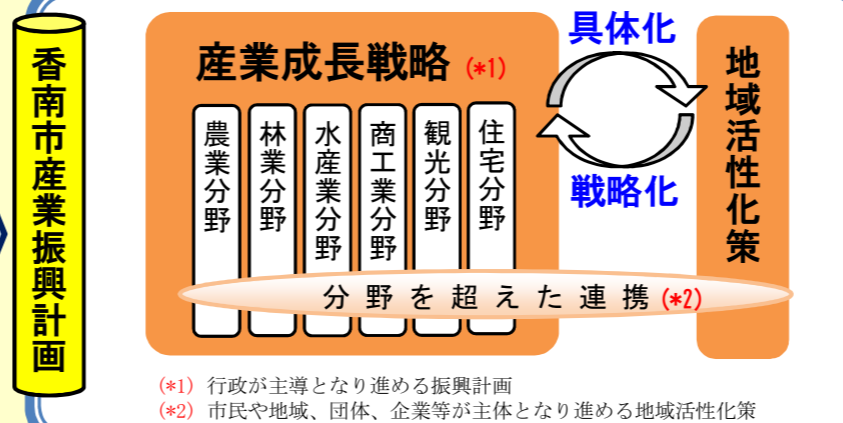
【災害に強いまちづくり】

- ① 耐震化の促進、災害時備蓄品整備の充実
② 自主防災組織の設立・活性化
③ 災害時における地域の支え合いづくり
④ 消防・防災対策の強化

【大学との連携】

- ① 大学との連携

H30年度取り組み状況の概要



H31年度の取り組みについて

★産業振興計画推進分野別部会による取り組みを継続
・分野別の部会が機能しはじめたことにより、実質的な議論の展開が図られている。また、部会は当事者として意見を出し合い、策定委員会との連動を図っている。これら取り組みを継続して実施。
・水産業部会へ内水面漁業関係者を新たな委員として依頼。

★分野別部会の部会員および策定委員による合同会議を継続
・平成29年度から合同会議を開催。他の分野の部会員と意見交換が行え、分野を超えたつながりを持つことができている。これら取り組みを継続して実施。

- ★新たな事業等への取り組み
\* 農業次世代人材投資事業(拡充)
\* 森林環境譲与税の活用
\* 築いそ整備事業(種子島周辺漁業対策事業)
\* 空き店舗対策事業(拡充)
\* 未来人材育成奨学金返還助成支援(拡充)
\* 香南市情報サービス施設等設置促進事業
\* 自然体験型観光資源強化事業(ヤンパークランドデザイン)
\* レンタカー会社と連携して誘客を促進
\* 3市の観光資源を生かした旅行商品の造成及び販売

産業振興と雇用の創出で人口増へ

★人生支援計画推進分野別部会による取り組みを継続
・人生支援計画を着実に推進できる体制の強化として、人生の各世代(幼年就学期部会・成年熟年齢部会・高年齢部会)ごとに部会を設置し、その部会ごとに世代に応じた施策の検討を行う。

- ★新たな事業等への取り組み
\* 空き家改修事業費等補助金(拡充)
\* 地方創生移住支援事業
\* 就学援助費(幼稚園給食費)(拡充)
\* 不妊治療助成事業(拡充)
\* LINEを活用した情報発信の検討(市のHPとLINEの連携事業)
\* 医療機関送迎サービス事業の検討(拡充)

人の流れをつくり、若い(すべての)世代の希望をかなえることで人口増へ

- ★新たな事業への取り組み
\* 住民主体の受け皿づくり事業
\* 集落の活力づくり支援事業

\* 事業は、H31年2月改訂版で具体的な事業として追記

★れんけいこうち広域都市圏の取り組みを継続。高知市と連携して、香南市の活性化を一層図る。
★総合戦略企画会議を継続して開催し、社会増実現のための施策や方向性について検討する。

★人生支援計画や産業振興計画の施策との連携による、効果的な事業展開を企画する総合戦略企画会議を開催(7/13)

<b>基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する</b>	
基本的方向： (1) 足腰を強め「地力」を高める	
概要 目的	○農業の分野では、担い手の確保、生産基盤強化により、一次産品の安定生産の体制づくり、生産量増加、市の総生産額の増加へとつなげていきます。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H30)	H31 年度末の目標
新規農業者数	7人/年	実績値 9人/年 目標値 12人/年	15人/年

**【直近の成果 (アウトカム等)】** 新規農業者数 H30 年 11 月末 9人/年 (Uターン5人、Iターン4人)  
※平成 30 年度新規就農者集計表 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日に就農した者) 高知県中央東農業振興センター調べ

**1. 取組状況 (H30 年度)** 平成 30 年 11 月末現在

新規就農者として、本年度は 9 人が営農を開始したが、目標達成には至らなかった。

**(1) 農業の振興**

- ①農業生産基盤の充実
  - 老朽化した頭首工他の整備を農業基盤整備促進事業として申請・実施しているが、本年度も同事業では未採択のため、農地耕作条件改善事業として引き続き事業を実施。事業進捗率は年度末に確定となる。
- ②治水・利水整備の促進
  - 工業用水道条件整備 (水路 3・道路 1)・農業集落排水整備事業 (水路 2) は予定通り事業実施中。
- ③担い手対策の促進
  - 新規就農者や規模拡大農家に対して園芸用ハウス建設の助成を行う、園芸用ハウス整備事業を実施。中古ハウス 1 件、新規ハウス 2 件が完成。中古ハウスは概ね予定通り進んでいるが、新規ハウスは中止案件が多い。結果、整備面積は 3,016 m<sup>2</sup>であり、目標 (面積 15,000 m<sup>2</sup>) 達成はできそうである。
  - ハウス園芸作物の収量向上のため、炭酸ガス発生装置等の導入に対する経費の一部を助成する環境制御技術普及促進事業を実施。昨年度より対象者を見直し、団体 (組織) でなく個人でも申請できるように要綱を改正し、43 戸 (69 施設) が利用。目標の 30 戸に対し、事業は順調に実施中。
  - 新規就農推進事業の親元就農応援区分 (農家子弟を Uターン就農させて研修を行うとともに経営体の改善や発展に取り組む認定農業者等への支援の実施) では、相談が 1 件で申請は 0 件。専業農家育成区分 (就農希望者を研修生とし、地域で活躍される先進農家において実践的な研修の実施) では、目標 3 人に対し 4 人が研修を開始し、目標は達成できた。
  - 農業経験のない者に対し研修を受け実践的な能力をつけてもらう、担い手育成研修支援事業では、1 人に研修に係る費用の支援を行った。(目標 10 人)
  - 就農直後の不安定な経営に対して後継者の方に補助を行う、農業後継者推進事業を実施。目標 15 人 (累計) に対し、15 人へ支給を行った。(うち、新規給付者は 3 人)
  - 農業次世代人材投資事業 (経営開始型) (旧：青年就農給付金事業) については、目標 10 人 (累計) に対し 11 人に支給を行った。(うち、新規給付者は 1 人)
  - 新事業の農業大学校就学助成事業 (学費を半額助成) については、まだ申請は 0 件。
  - 農業担い手候補生として 5 月から 1 人 (地域おこし協力隊) 雇用し、現在みかん農家を目指して活動中。

**④農産物ブランド化の推進と加工品の開発**

- 産業振興推進総合支援事業において、エメラルドメロンの販売力向上とニラの産地力強化、流通・販売力の強化に取り組んでいる。(園芸年度は 9～8 月のため、今回は 9～11 月で集計)  
 エメラルドメロン・・・ 447,585 千円 (目標 437,500 千円) (※H29 年度実績：428,435 千円)  
 ニラ・・・ 995,506 千円 (目標 1,230,000 千円) (※H28 年度実績：1,029,042 千円)
- 香南市農業活性化協議会による、6 次産業化・加工品開発部会と地産外商部会を定期的に開催。6 次産業化担当として地域支援協力員も雇用し、「山北みかんジュース」の商品開発を行った。また、既存商品の「山北みかんバター」は 2,248 個、「山北みかんかき氷」は 602 個を販売。(農山漁村振興交付金を活用)

**⑤消費者の安全安心志向への対応**

- 地産地消推進協議会事業により、耕作放棄地を利用した市内全保育所・学校給食米の栽培・供給を実施し 21 t を納品。地産地消と耕作放棄地の解消につなげている。(H28:4.2ha→H29:7.2ha→H30 年度:11.0ha)  
 また、学校給食市内野菜 (主要品目) の使用率向上に向けた取り組みを順調に実施している。しかし、長雨や台風の影響で市内産野菜の生育が進んでなく、今年度の地元産食材の利用率は低下が予想されている。

**⑥中山間農地の保全と活用の促進**

- 中山間地域等直接支払事業により、農業生産条件が不利な地域において支援強化を行う。参加協定団体も目標どおり 11 組織で、面積も増加できている。(H28:61.6ha→H29:63.4ha→H30:65.0ha)
- 鳥獣被害対策担当として昨年度から地域支援協力員を 1 名雇用。被害防止柵は延長 7,224m を設置。有害鳥獣被害対策事業として、目標 (500 頭羽) に対し 497 頭羽を捕獲。  
 (イシ 192・シ 111・カス 9・ヌキ 130・ハビシ 41・アガマ 14)



**2. 課題と今後の取組**

これまでの取り組みの継続と農業人フェアや高知暮らしフェアなどの新規就農に向けたイベント等に参加し、一層の周知を図る。また、引き続き新規就農者が増えるよう就農支援や補助制度の充実を図る。

**(1) 農業の振興**

- ①農業生産基盤の充実
  - 農地耕作条件改善事業で、未採択であった頭首工の整備を図る。なお、引き続き同改善事業で採択がされるよう要望し、採択後はスムーズに事業実施されるよう地元調整を進める。
- ②治水・利水整備の促進
  - 引き続き地元協議調整を行いながら、要望箇所の早期竣工に向け計画的に進めていく。
- ③担い手対策の促進
  - 年度内には中古ハウス 2 件・新規ハウス 11 件が完成予定 (面積 20,294 m<sup>2</sup>)。次年度も J A・振興センターと連携し、施設園芸農業の一層の振興を図る。また、実践型研修ハウスも 3 棟完成予定 (面積 2,970 m<sup>2</sup>)。
  - 環境制御技術普及促進事業は、本年度が補助金最終年度となっているが、次年度も残してもらうよう県に要望をあげていく。
  - 年度内に親元就農区分についての産地提案書を作成し、提案書を元に J A・振興センターと連携し一層の周知を図る。また、広報などで補助制度の周知を継続し、新規就農者の確保と育成を図る。
  - 就農相談は多い (10 件) が、就農を安易に考えている方が多く、受講には至らなかった。引き続き、広報などでの補助制度の周知を継続し、農業後継者への補助と育成を図る。
  - 本年度で 14 人の給付が終了することから、引き続き事業の周知と取り組みを継続し、新規者の獲得を図る。
  - 目標数値は達成できているが、新規給付者が少ないので、新規者の獲得が図れるよう制度要件の拡充と周知を図る。
  - 引き続き広報等を通じて助成制度の周知を継続する。
  - 引き続きみかん農家をめざして活動の充実を図る。

**④農産物ブランド化の推進と加工品の開発**

- エメラルドメロンについては、引き続き、増収、高品質生産向上対策、生産コスト低減技術により生産性強化を図るとともに、ブランド力の強化、有利販売につながる、知名度・販売力の向上対策を実施する。  
 ニラについても、高温対策技術の確立や雇用労力確保、規模拡大など生産上の対策を実施するとともに、流通・販売上の対策を実施し、ともに販売額を伸ばしていく。
- 山北みかんの収穫時期がこれからであり、生産もこれから本格的に行われることから、各イベント等に出向き、活動の推進・販売の強化を図る。

**⑤消費者の安全安心志向への対応**

- 県改良普及課等の関係機関と連携し、品質及び納品量の安定的な確保、気候に対応した栽培計画及び品種の選定・研究を行い、安心安全な農産物づくりに取り組む。

**⑥中山間農地の保全と活用の促進**

- 取り組みの維持に向けた、地区説明会や広報周知を実施する。
- カラスなど鳥類は小さく狙うことも困難であり、駆除するものが少なく捕獲数が少ないが引き続き、被害対策協議会等、各地区の狩猟代表者が集まる場において駆除への協力等を要望していく。

**平成 31 年度の新たな取組**

**拡充** ①農業次世代人材投資事業の対象年齢を 45 歳未満から 50 歳未満に引き上げを行う。また、経営開始型を始める際に、三親等以内の土地は所有権移転をしなくても利用権の締結で可能とする。

<b>基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する</b>	
基本的方向： (1) 足腰を強め「地力」を高める	
概要 目的	○林業の分野では、生産性向上と森林の保全・活用に加えて、森林資源を活用した所得の向上と雇用の創出を図ります。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H30)	H31 年度末の目標
森林境界明確化面積	188ha	実績値 目標値 ha 150 ha	600ha 以上 (累)

**【直近の成果 (アウトカム等)】** 森林境界明確化面積 H30 年 11 月末 0 ha  
 ※H28・29 年度は事業未実施であったが、本年度は香我美町撫川地区で 50.61ha を実施中

## 1. 取組状況 (H30 年度)

平成 30 年 11 月末現在

☺ 森林境界明確化事業 (団地化及び境界明確化) は、H28・29 年度は未実施であったが、今年度は香我美町撫川地区 (50.61ha) で 10 月から事業を実施中。

### (2) 林業の振興

#### ① 森林の多面的な利活用の促進

- 林道道路側溝整備事業 (3 事業) を予定していたが、豪雨等の自然災害により各林道施設の被災・孤立集落の解消等を行うため予定事業を見直し。緊急性の高い工事を優先して行うことし、1 事業の実施のみ (完了) となっている。
- 緊急間伐総合支援事業を実施していたが、豪雨等の自然災害により県道・林道が崩壊し、林業機械の搬入・木材輸送が不可能となり、復旧時期も未定であることから現時点の数値が実績となる見込み。
  - 切捨間伐 (計画 10ha) 香我美町奥西川・撫川ほか 【実施 8.57ha】
  - 保育・搬出間伐 (計画 58ha) 夜須町仲木屋 【実施 16.0ha】
  - 作業道整備 (計画 1,700m) 香我美町撫川・舞川ほか 【実施 1,100m】
- 森林整備地域活動支援事業の森林所有者境界明確化は、豪雨等の影響により予定していた対象地 (夜須町沢谷) を変更し、10 月より実施中。しかし、対象地の変更に伴い条件整備は取り止めとなった。
  - 森林所有者境界明確化 (計画 50ha) 夜須町仲木屋  
⇒ 対象地を変更 (香我美町撫川地区 (50.61ha) して実施中)
  - 条件整備 (計画 作業道の改良 38ha) 夜須町沢谷 【未実施】

😊 ● 森林・山村多面的機能発揮対策事業は、「森と緑の会」に補助金を交付。里山林の保全管理や竹林の整備、地域の活性化を目指した取り組みに生かされている。

☺ ● 本年度より林地台帳整備事業の運用を開始。閲覧・情報提供の申請件数は 1 件。  
 (※森林整備に必要な基礎情報を林地台帳として整備し、森林情報の確認・提供および地図の公表が可能)

😊 ● 水源の森整備事業については、当初要望はなかったが、香美森林組合から協議があり、当初予定はしていなかったが、1 箇所  
 で 11 月より事業実施中。  
 ○ 搬出間伐 (計画 0ha) 香我美町撫川・奥西川・夜須町沢谷 【実施 16.66ha】

● 森林整備推進事業 (高性能林業機械導入) として、8t ベース・グラップル付きトラックとプロセッサを 1 台ずつ導入予定だったが、トラックは国費不採択となり導入を見送った。プロセッサは、H31 年 3 月に導入予定。導入に伴い、林道や土場などで、全木集材されてきた材の枝払い、測尺玉切りを連続して行い、玉切りした材の集積作業を一貫して行うことができ、作業の大幅な時間短縮が可能となる。

#### ② 森林の活用 (木質バイオマス利用促進)

● 農業ハウス用ペレットボイラー数は、現状 2 基導入しており、問題なく使用中。



## 2. 課題と今後の取組

2 年間事業が未実施だったが、事業主体の香美森林組合と連携調整を図り、末本年度より事業を再開することが出来た。なお、豪雨等の自然災害により予定されていた対象地を変更しての実施となっている。今後は、地権者が明確な場所は事業を理解してもらうよう説明を行い、同意を増やしていく。所有者不明の場所については、森林法第 191 条の 2 (森林所有者等に関する情報の利用等) を根拠に所有者の特定に協力していく。

### (2) 林業の振興

#### ① 森林の多面的な利活用の促進

- 被災した各林道施設の復旧を迅速に行い、見直しとなった事業を実施できるように対応する。
- 緊急間伐総合支援事業については、県道の復旧時期が未定であるため、事業計画が立てられない状態となっている。県や関係機関と連絡を密にし、復旧時期の把握と、早期の事業計画・事業実施を図る。
- 森林整備地域活動支援事業については、変更の対象地で引き続き事業を実施。また、地権者への把握と説明を行い、理解と事業への同意者を増やして行く。事業費については、今後「森林環境税」充ててことを検討しており、関係機関と協議をしながら、導入に向けて準備を進める。
- 森林・山村多面的機能発揮対策事業は、引き続き「森と緑の会」と協議しながら事業の継続と取り組みの周知を図る。
- 継続して森林情報の収集に努め、森林調査や境界測量に活用していただける整備の充実を図る。
- 水源の森整備事業については、引き続き、事業主体の香美森林組合と協議し事業を実施する。また、実施にあたっては、広報への掲載や所有者への文書配布を予定している。
- 森林整備推進事業 (高性能林業機械導入) として、今年度は 8t ベース・グラップル付トラックが不採用となった。導入する機械の優先順位を再検討した結果、来年度はスイングヤードを導入予定。



#### ② 森林の活用 (木質バイオマス利用促進)

● 問題なく使用はされているが、今後は、機器の耐用年数の問題あり、利用者と協議が必要となっている。また、バイオマスボイラーを活用した農業の活用も、農業部会と連携して情報収集を図る。

## 平成 31 年度の新たな取組

- 継続** ① 林業生産基盤と環境整備の充実を図るため、林道道路側溝整備事業を活用し、復旧工事や清掃事業、舗装工事を行う。
- NEW** ② 森林環境譲与税を使った新たな取り組みを行う。

**基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する**

基本的方向： (1) 足腰を強め「地力」を高める

**概要目的**  
 ○生産基盤充実や後継者育成支援、観光産業との連携を推進し、資源回復と経営力の強化により稼げる水産業を目指します。  
 ○農業・水産業における加工、流通、販売体制を強化するために、水産加工品の付加価値向上を図り、農業、水産業における加工・流通・販売体制を強化、香南市ブランドの展開や販路拡大を図ります。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H30)	H31 年度末の目標
沿岸漁業総生産量	1,313 トン	実績値 702 トン 目標値 1,200 トン以上	1,200 トン以上

**【直近の成果 (アウトカム等)】** 沿岸漁業総生産量 H30 年 11 月末 702 トン  
 手結 477 トン・赤岡 135 トン・吉川 90 トン 計 702 トン (前年比 138%)

**1. 取組状況 (H30 年度)**

平成 30 年 11 月末現在

⊖ H30 年 11 月末の沿岸漁業総生産量は 702 トン (目標値の 58.5%) と目標を下回っている。なお、漁獲量は 2 億 1988 万円 (前年比 169%) で例年より上昇しており、所得の向上は図れている。

**(3) 水産業の振興**

**① 漁港の改修・整備等の推進**

😊 ●漁港施設の老朽化に伴い、計画的に漁港の保全・改修整備を行っている。改修整備率は、施工中のため、前年度末から変更なしの 25.0% (目標数値 37.0%) であるが、概ね予定どおり事業実施できている。

**② 漁業経営の基盤強化**

●老朽化に伴う各種漁業用施設の改修、整備として、各支所や地区代表の方などの関係機関との協議において本年度は 2 箇所の整備改修を実施。そのうち、1 箇所 (赤岡水産機能施設荷捌所荷捌施設設置工事) は完成。残りの手結支所製氷機更新工事は年度内に完成予定。  
 ●産業振興計画水産部会において、海面漁業については協議されているが、内水面漁業については議論がされていなく、部会の中で議論が必要となっている。

**③ 漁場の保全**

●手結地区藻場保全活動として食害生物 (ウニ) 駆除 (2 回) とモニタリングを実施。今年度は豪雨・台風等天候の関係で調整がつかず駆除 (ウニ) の回数が減った。また、食害生物の (魚類) 駆除及び母藻の設置は未実施。モニタリングの結果 (海藻類育成被度) は、年度末確定公表となる。  
 ●赤岡・吉川地区の掃海活動を年末に実施予定で調整中。  
 ●過去に整備した手結沖の築いそが耐用年数を経過しており、魚介類の集漁効果の向上のために整備が必要となっている。

**④ 観光漁業の推進**

●地引き網漁業について、赤岡に 1 経営体あったが、後継者がいないことから休止の状況になっている。市の観光の中心を担ってきた地引き網の存続に向けた取り組みを関係機関と行う必要があるが、人員や漁業権の問題もあり、具体的な取り組みはまだ見えていない。

**⑤ 水産加工品流通販売の推進**

●販売先の拡大などにより、手結加工場の販売額は本年度より販売金額目標を増額 (1,500 万円→3,000 万円) しているが、5,615 万円と大きく目標を達成。

**(4) 農業・水産業における加工・流通・販売体制の強化**

**① 地産地消の推進**

😊 ●学校給食へのシイラ加工品の納入回数は 14 回。(目標 11 回)  
 地産地消の推進及び体験学習として、釜揚げ学習・調理体験 (赤岡小世代間) を 1 回実施。  
 ●かちりじゃこの学校給食への納入に向けて、加工業者にアンケートを実施。5 者中 3 者が納入の意向を持っている。

**② 加工・流通・販売などの体制を強化**

●手結加工場において、新たな雇用はできなかった。  
 また、安定した加工体制の強化を図るために産業振興計画施設等整備事業を活用し、保冷車の購入を準備中。  
 ⊖ ●新規漁業就業者の確保について、法人経営体が短期研修を 1 人受け入れたが、就業までには至らなかった。  
 市内の主要漁業形態は 1 人での就業が難しいことと、住む場所の確保が必要という意見もある。



**2. 課題と今後の取組**

沿岸漁業の総生産量は好漁、不漁の関係も大きく影響するものであり、目標数値の達成は困難な状態だが、昨年度実績 (839 トン) 以上の生産量を目指す。

**(3) 水産業の振興**

**① 漁港の改修・整備等の推進**

●国庫補助事業であるため、予算配分により整備率は上下することもあるが、老朽化判定 A とされている施設の中でも優先度を決定し事業を実施していく。引き続き漁港施設の機能保持のため計画に沿った保全工事を実施することと、県管理の港湾、漁港、海岸事業への施設整備の継続要望を実施する。

**② 漁業経営の基盤強化**

●手結支所製氷機更新工事を年度内に完成予定。引き続き、漁業関係者の意見をもとに、機能保持のための改修、整備を継続的に実施する。  
 ●産業振興計画水産部会に内水面漁業関係者を委員として参加を依頼し、海面漁業及び内水面漁業の両方の振興の検討を行う。

**③ 漁場の保全**

●海藻類育成被度調査が年度末に実施されることから、結果を参考に、引き続き食害被害のウニ・魚類駆除の継続実施していく。  
 ●掃海活動については、12 月に実施。継続して事業実施に取り組んでいくことと、掃海用の網を少しずつ整備し、出水時でも掃海できるようにしていく。  
 新 ●種子島周辺漁業対策事業を活用して築いその整備を行い、資源の保護・増殖、生産量の増加を図る。

**④ 観光漁業の推進**

●地引網漁業は、漁業権の関係で漁業者が実施することが絶対条件になるため、再開に向けて市や漁協等が支援できることの整理を行う必要があるが、人員や漁業権の問題もあり、具体的な取り組みは見えていない。

**⑤ 水産加工品流通販売の推進**

●平成 31 年度以降も手結加工場の販売金額目標達成を目指し、一層販売の推進を図る。

**(4) 農業・水産業における加工・流通・販売体制の強化**

**① 地産地消の推進**

●一層のシイラ加工品の学校給食への納入増加を図る。また、引き続き、地産地消の普及啓発と食育授業、体験学習の継続及び強化を図る。  
 ●かちりじゃこの給食食材としての納入について、給食センターと調整を図り、サンプル品の評価等の実施を行い、納入に向けて取り組んでいく。

**② 加工・流通・販売などの体制を強化**

●加工・流通・販売体制の強化が図れる機械の導入を検討し、要望に努める。また、シラス漁における所得向上対策検討に向け、漁業関係者の状況について聞き取り、現状についてまとめて対応策を協議する。  
 ●新規漁業就業に関する相談窓口が一元化され、県漁業振興課に相談窓口が設置された。市も漁業希望者を総合的に支援する新たな組織の検討委員会の構成員として参加し、支援体制について一緒に協議・見直し等を行い、新規漁業就業者の確保に努める。

**平成 31 年度の新たな取組**

- 拡充** ① 産業振興計画水産部会において、内水面漁業関係者を委員として参加を依頼し、海面漁業及び内水面漁業の両方の振興の検討を行う。
- NEW** ② 種子島周辺漁業対策事業を活用し、漁場の保全 (資源の保護・増殖、生産量の増加) をめざして、手結沖の「築いそ」の整備を行う。

**基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する**

基本的方向： (2) 新たな産業づくりに挑戦する

**概要**  
**目的**  
 ○商工業の分野では、既存企業への育成支援、地場産業や観光施設との連携により、魅力ある商業地・商店街づくりを推進するなど、ものづくりからの雇用拡大と地域の賑わいを創出します。  
 ○6次産業化による新産業の創出では、生産者が付加価値を生み、産業を活性できる仕組みづくり、及び関係機関と連携し、補助事業の活用等を含めて支援していきます。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H30)	H31 年度末の目標
製造品出荷額	407 億円	実績値 目標値 500 億以上	500 億円以上

**【直近の成果 (アウトカム等)】** 製造品出荷額 平成 30 年 11 月末 未確定  
 ※H30 年度の実績値は、H30 工業統計調査の公表金額。(調査対象期間：H29 年 1 月～12 月)

**1. 取組状況 (H30 年度)**

平成 30 年 11 月末現在

製造品出荷額は、平成 31 年 2 月頃公表となるため、未確定。  
 企業に関するさまざまな知見やネットワークを有するイシン(株)と包括連携協定を締結(12/18)することができた。



**(1) 商工業の振興**

**① 企業誘致の促進**

- 香南工業団地整備事業により整備された区画の早期完売の取り組みを実施。残り 1 区画(約 1.6ha)については、みずまる加工(株)に分譲が決定し、全 5 区画の企業誘致ができた。
- 川谷刈谷工業用地の分譲については随時再公募を行っている。上半期中には公募もあり、選定委員会も開催されたが分譲には至っていない。

**② 既存企業の育成・支援**

- ルネサス社高知工場の閉鎖後、県企業立地課と連携して交渉を行い、丸三産業(株)に譲渡先が決定し、企業進出協定を締結(10/4)。企業合同説明会(10/16)・会社説明会、面接会(11/17-18)を開催。
- 香南市ものづくり会において、会員企業の現状と課題の把握、また今後の支援施策に反映させるべく、企業訪問(7社)を実施。懇談会については、1月～2月で調整中。
- 各種の支援事業について、市HPへ掲載、企業交流会での説明、県内3大学や企業を訪問し周知を図った。
- 産業人材育成事業の申請が2件。(目標5件)(補助対象事業拡大で利用増加に繋がっている)
- 未来人材育成奨学金返還助成支援事業(目標10人)およびインターンシップ支援事業(目標10件)は、問い合わせはあったが申請はなかった。
- 香南市緊急融資保証料補給金事業は10件の利用実績。
- 中小企業者の生産性向上支援事業は8件の利用実績。(対象設備となる固定資産税率を3年間ゼロとする)

**③ 魅力ある商業地・商店街づくり**

- 街イベント「香南カーニバル」を開催。(11/19-25) 目標の500セット(@3,500)に対し537セットのチケット販売があり、出店者・参加者ともに好評であった。

**④ 空き店舗の活用**

- 空き店舗対策事業費補助金について、市HPへの掲載や市内金融機関訪問(5件)、空き店舗対策の調査研究に係る委員会の開催、商工会HP「空き店舗マッチングサイト」開設等に取り組んだ。目標2件に対し活用は1件。
- 高知県事業継承ネットワーク事務局と商工会で連携を取り、60歳以上の経営者を対象に事業継承診断を実施。(目標年間30件で、11月末現在18件)

**⑤ 新規企業の育成支援**

- 香南市香我美町立地企業交流会において懇談会を実施(11/21 8企業10名)し、講演会「働き方改革セミナー」を開催。
- 創業支援利子補給金事業として、受付が1月からのため実績はまだなし。(事業利用予定3件・目標3件)  
 また、創業したい方の創業準備段階に応じて必要な支援機関やアドバイザーにつなぐ「ワンストップ窓口」(商工水産課と商工会)へは、7件の相談(目標32件)があった。(商工水産課2件、商工会5件)



**(2) 6次産業化による新産業の創出**

**① 魅力ある新商品の開発**

- 「フルーツアイスパー専門店&スイーツカフェ「mana mana」」において、(株)ものべみらいからの役員派遣による戦略の立て直しを実施。  
 ランチメニューのリニューアルや山田高校とのコラボイベントの実施。7月には新商品の発表を含めたりリニューアルオープンを実施。売上は11月末で21,831千円と昨年度実績(16,356千円)を上回っているが、目標の52,578千円には至っていない。

**2. 課題と今後の取組**

**新** 目標値を達成するよう引き続き、既存企業と新規企業の育成・支援を図る。新たな取り組みとして、企業との連携の強化と事務系企業の誘致を行い、移住・UJIターンの促進にも繋げていく。  
 また、製品PRや消費者の反応を知るために、市外商業施設内で生産者による店頭販売を実施する。

**(1) 商工業の振興**

**① 企業誘致の促進**

- 香南工業団地については、引き続き立地企業の雇用促進を図るとともに、団地内及び周辺環境整備や適切な維持管理に努める。
- 川谷刈谷工業団地の分譲については、分譲の促進を図るため分譲要領等を見直し、改めて期間を定めて公募を行う。  
 公募期間(H31.1.15～H31.3.8)。

**② 既存企業の育成・支援**

- ルネサス高知工場の元従業員や協力企業の方で、県内の再就職先が決まっていない方に対して、高知労働局を中心に情報提供に努める。
- 香南市ものづくり会においては、企業訪問を継続して実施する。また、訪問や懇談会を通じて、各種支援策に反映できるように雇用や経営状況、課題等を把握する。
- 各種支援事業については、引き続き広報活動を積極的に行う。なお、未来人材育成奨学金返還助成支援事業は、助成対象区分を拡充し、創業者・新規就業者への支援を一層図っていくが、香南市インターンシップ支援事業は、企業のニーズに合った補助事業ではないので来年度より事業は廃止予定。  
 香南市緊急融資保証料補給金事業と中小企業者の生産性向上支援事業は、引き続き推進していく。

**③ 魅力ある商業地・商店街づくり**

- 来年度以降も街イベントを開催し、香南市のお店を広くPRしていく。

**④ 空き店舗の活用**

- 引き続き市内金融機関、不動産業者を対象に事業説明を実施し、情報共有の取り組みを進めるとともに、まだ回れていない商工会非会員の不動産業者(7店舗中残り6店舗)を回り「空き店舗マッチングサイト」の充実を図る。また、空き店舗対策事業費補助金は市内全域を対象エリアに拡充する。
- 60歳以上の経営者を対象にした「事業継承診断」の結果を取りまとめ、スムーズな事業継承の準備を図る。

**⑤ 新規企業の育成支援**

- 会員数の減少が課題であり、あらたな立地企業に交流会への入会を勧めていく。
- 外部サイトへの事業紹介を掲載していき、利用促進を図る。また、商工会への創業相談時には当事業の紹介を徹底していく。

**(2) 6次産業化による新産業の創出**

**① 魅力ある新商品の開発**

- 引き続き、ランチメニューの拡充と新商品の開発、店頭販売や販路拡大に向けた商品のPR、外商活動を強化するために必要な人材を確保する。また、夏場の繁忙期や外販受注に備えて必要なアイスパーを確保するため、計画的な製造を行う。(目標10,000本)

**平成 31 年度の新たな取組**

- 拡充** ① 空き店舗対策事業の対象を市内全域に拡充し、「商店街の賑わい」から「商業の賑わい」の創出を図る。
- 拡充** ② 未来人材育成奨学金返還助成事業は、製造業者に限定していた助成対象区分を拡充し、市内全事業所への新規就業者及び起業家も対象とする。
- NEW** ③ 事務系企業の誘致を図るため、**香南市情報サービス施設等設置促進事業費補助金**を新設。

<b>基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する</b>	
基本的方向： (2) 新たな産業づくりに挑戦する。	
概要 目的	○観光のまちの育成では、観光地や施設を訪れた人が地域交流を楽しむ機会づくりや受入体制の充実、また、安心して楽しむための整備を推進するとともに、地域の情報発信力強化に取り組みます。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H30)	H31 年度末の目標
観光施設入込客数	93 万人	実績値 98.5 万人 目標値 120.0 万人	120 万人以上

**【直近の成果 (アウトカム等)】** 観光施設入込客数 (暦年) H30 年 11 月末 98.5 万人  
 ※対象施設…のいち動物公園、月見山こどもの森、ヤ・シバパーク、絵金蔵、香南市サイクリングターミナル (宿泊以外)、天然色市場、やすらぎ市、あぐりのさと、アクトランド、黒潮温泉、土佐カントリークラブ

**1. 取組状況 (H30 年度)** 平成 30 年 11 月末現在

観光施設入込客数は、目標 120 万人に対して 11 月末現在で 98.5 万人の実績。  
 「志国高知 幕末維新博 (H29.3.4 開催)」にあわせ、H29 年 2 月に 100 万人から上方修正を行い、高い目標を持って取り組んでいる。観光施設から周辺観光施設等へ周遊させることが課題となっている。

**(3) 観光のまちの育成**

**①観光・交流の拠点の場づくりと市民参加**  
 ●物部川流域フェスタ実行委員会を「物部川DMO協議会」へ引き継ぎ、3市 (南国市・香美市・香南市) と3市の観光協会・商工会を中心にものべがわフェスタ 2018 を開催 (10/14)。来客数は 5,000 人と目標 (6,000 人) には至らなかったが、ステージイベントや3市ならではのうまいもの市、体験コーナーを通して、広く地域住民が交流できた。

**②情報発信手段の効果的な活用**  
 ●外国人観光客受入環境の整備 (観光案内板等) は、目標の 5 件は整備済み。新たな設置は行っていない。公衆無料 Wi-Fi もこれまでに目標の 6 箇所 (のいち駅、ヤ・シバパーク、絵金蔵、弁天座、サイクリングターミナル、天然色市場) は整備済み。  
 ●訪日外国人観光客受入体制づくりとして、高知県おもてなし課の事業を活用し、外国人観光客受入研修を実施 (全体セミナー: 8/30 12 施設 18 人参加・個別研修: 9 施設)。また、絵金蔵においても、訪日外国人観光客の団体を受入 (4/25: 72 人・10/8: 99 人)。

**③地域に親しむ観光の促進**  
 ●まちあるきガイドの案内体制が強化でき、現在 23 名の登録 (案内可能人数 6 名程度) がある。11 月末までに 6 回 (89 人) の受入を行い、市内の歴史・文化的な施設等をおもてなし心を持って案内を行ない、好評を得ている。また、他ガイド団体主催の研修会に参加し、ガイド技術のスキルアップと県内他観光ガイド組織との連携強化も図れた。  
 ●ウォーキングコースは昨年度から目標の 10 コース (5 町各 2 コース) の設定が図れている。  
 ●サイクリングコースは、6 コースの設定 (目標 5 コース) を行っており、サイクリングパンフレットを活用しながらコースの普及を図っている。  
 ●自転車を活用した観光への取り組みとして、地域おこし協力隊を 1 人雇用し、市内のサイクリストや関係者に声掛けをし、サイクリングを推進する団体「Maze-Cle」を設立。  
 ・サイクリングを中心としたイベントを 5 回開催。(4/22・5/12・9/23・24・10/7・11/25)  
 ・環境整備として、サイクルオアシス (スタンド・空気入整備) を羽尾大釜荘とサイクリングターミナルに整備。  
 ・レンタサイクルを 4 月~11 月の間に 1,602 人に貸出。(目標 2,100 人)  
 ・タンデム自転車の公道解禁に伴う取り組みを強化し、走行会や体験教室を実施。  
 ・健康増進と環境に配慮した取り組みとして、健康サイクリングを開催 (5/27・6/24・8/5)。参加者は 25 人で目標 (60 人) には至らなかった。



**④活性化に向けたあらゆる産業との連携強化**  
 ●平成 30 年 9 月に作成した香南市ギフトカタログ通年号「まるごと旨市」では、目標の 36 事業所を上回る 45 事業所 (211 品目) を掲載し 10,000 部配布。健康チャレンジポイントの活用で、利用増に繋がっている。  
 ※カタログ販売額は 61,810 千円。(内訳: ふるさと納税 59,306 千円、地場促進 2,504 千円)  
 季節のお勧めチラシ (サマーフェアチラシ) も 6 月に 5,000 部作成。利用者の興味をひく工夫と香南市の地域資源 (商品) に接しやすい環境づくり、販路拡大に取り組めた。

**2. 課題と今後の取組**

7 月、8 月の西日本豪雨の影響により夏休みの繁忙期に集客が伸びなかった施設が多かった。  
 新 今後は、ポスト幕末維新博にあわせ、観光施設から周辺観光施設等へ周遊させる取り組みはもちろんのこと、ヤ・シバパークグランドデザインを策定し、それを基に施設や動線等の再整備、イベント等を企画し、「自然・アクティビティ型の観光クラスター形成」に取り組み、集客を図る。

**(3) 観光のまちの育成**

**①観光・交流の拠点の場づくりと市民参加**  
 ●来年度以降の同イベントの実施を予定しており、DMO協議会を中心として3市の関係者が連携し、協議会の目的、ターゲット層に沿ったイベント等を企画し開催する。

**②情報発信手段の効果的な活用**  
 ●引き続き、訪日外国人観光客の受入体制づくりに取り組みるとともに、ターゲットを定めた観光紹介と商品PRを行う。また、れんけいこうち事業として開設される観光案内所において、多言語対応パンフレットの配布を行い、情報発信に取り組む。  
 新 ●訪日外国人観光客の受入研修を継続して実施する。また、航空機を使用した観光客をターゲットにレンタカー会社で香南市の周遊マップやグルメ情報誌などを配布してもらうなど、レンタカー会社と連携した誘客促進に取り組む。

**③地域に親しむ観光の促進**  
 ●会員増に向けた勧誘に取り組み、案内ができるガイド育成のための勉強会や研修会を開催する。また、他地域のガイド組織と合同研修会を行い、スキルアップと案内人会の組織体制の強化を図る。  
 ●H31 年 3 月に、赤岡町で「四季を感じる田園風景と昭和のロマン街歩きコース (須留田八幡宮を回る全長約 4km) を開催する。また、香南市 5 町を巡るウォーキングコースの設定と設定コースを活用したウォーキングイベントを企画する。  
 ●魅力あるサイクリングロードの設定は順調に出来ているので、サイクリング専門委員会や「Maze-Cle」と連携してサイクリングに興味を持ってもらえる取り組みを強化していく。  
 ●地域おこし協力隊や「Maze-Cle」と一緒に安全・快適に楽しめる環境整備を進めるとともに、自転車の活用を促進できる人材を育成し、サイクルツーリズム (自転車での観光) に取り組む。  
 ・引き続きイベントを開催し、サイクリングの魅力発信を図る。(12/15・1/20)  
 ・環境整備として、民間業者へのサイクルオアシスの設置声掛けやブルーラインの延伸を県へ要望していく。  
 ・レンタサイクルの周知についてまだまだ周知不足である。市広報やケーブルテレビを活用し、推進を図る。  
 ・タンデム自転車の乗り方教室を 2 月に開催予定。福祉事務所や、視覚障害者協会などの関係機関と連携し、こぎ手の育成と視覚障害者に自転車体験の取り組みを実施する。また、引き続きタンデム自転車を利用したイベントを開催し、周知を進める。  
 ・健康サイクリングの参加者は少なかったが、回数や距離を延ばしてほしいという声も多く、それらニーズを把握し、次回のイベントに繋げていく。

**④活性化に向けたあらゆる産業との連携強化**  
 ●引き続き、カタログ・キャンペーンチラシなどの簡易チラシを作成し、魅力的な商品の提供に取り組み売り上げ増を図る。また、県内外のイベント等に参加し、直接説明・試食で香南市のファン増加を図る。

**平成 31 年度の新たな取組**

- NEW** ①自然体験型観光資源強化事業としてヤ・シバパークグランドデザインを基にした施設や動線等の再整備を図る。
- NEW** ②空港周辺のレンタカー会社と連携した誘客促進に取り組む。



**基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する**

※数値目標は、資料 1-5 と同じため省略

基本的方向： (3) 分野を超えた産業間の連携を強化する

概要  
目的

○6次産業化による地産地商の徹底では、生産物の出荷価格の維持、付加価値化による生産物の出荷価格の安定。食糧の安定供給、地場産品の生産の維持・継続を図ります。  
○観光拠点形成とネットワーク構築では、地域資源の再発見を進めるとともに、各観光施設・交流拠点のネットワーク化を図り、観光資源を点から面へと一体化した情報提供や、観光協会などの支援を促進します。  
○産業人材の育成・確保では、ハローワークや企業など、さまざまな分野との連携を強化し、就労機会の拡大に努めるとともに、県と連携し産業振興等につながる人材育成の実施を支援していきます。

**1. 取組状況 (H30 年度)**

平成 30 年 11 月末現在

(1) 6次産業化による地産地商の徹底

①地産地商の拠点(直売所)の機能拡充

●やすらぎ市、あぐりのさと、天然色市場などの直販所での集客数は 149,430 人。天然色市場が管理者不在のため 4 月から開設が出来ていないこともあり、目標の集客数(300,000 人)には大きく届いていない。

②地域内での創意工夫によるコミュニティビジネスの支援

●西川集落活動センターにおける新たなコミュニティビジネスの展開はできていないが、みかんを使ったオレンジットを開発中。

(2) 観光拠点形成とネットワーク構築

①資源の再発見(価値化・付加価値化)

●新たな観光拠点の形成として、三宝山の観光拠点化に平成 25 年度より取り組み開始。本年度は検討委員会を開催し、基本計画の整備計画について見直しを行い、三宝山中腹やふもとの観光施設との連携や風力発電施設跡地などを活用するなど、三宝山エリア全体での観光拠点化を目指すことを確認。

●ヤ・シィパーク周辺地域での観光拠点の磨き上げとして、ヤ・シィパーク活性化推進協議会を中心に取り組みを開始。高知県観光拠点等整備事業費補助金(自然体験型観光資源強化事業)を活用し、ヤ・シィパークランドデザインの策定等に取り組んでいる。

②観光・交流の場づくり(地域住民参加)

●地域の特色を活かした祭りやイベントを開催し、30,000 人を集客。目標値は 60,000 人だが、みなこい港祭りが雨天のため火大会のみの実施となったことと、冬の夏祭りの集客数が反映されていないことが集客減の原因である。(4 イベント: だるめ祭り・絵金祭り・みなこい港まつり・冬の夏祭り)

③観光旅行会社(企画)とのタイアップによる複数観光ルートの構築

●香南市観光協会がエージェントセールス(旅行代理店営業)のために、商談会に参加。年間 6 回を予定していたが、2 回のみとなっている。

また、年間を通して、市内の観光素材や伝統文化、案内人ガイドを活かした体験モニターなどの事業を実施。さまざまな地域で地元住民と観光客が接する機会を設けることができ、地域の活性化につながった。

④物部川流域 3 市での観光振興

●主要観光施設入込数は、7・8 月の西日本豪雨の影響により夏休みの繁忙期に集客が伸びなかった施設が多く、489,975 人と目標値(711,000 人)と目標を下回っている。(達成率 69%)

ミキハウスエリア認定の継続とエリアを主体とした企画・イベントを GW と 6 月に開催。(デジタラスタブ ラー) バリアフリー観光の実態調査及び先進地視察を実施。

●物部川 DMO 協議会がエージェントセールス(旅行代理店営業)のために、商談会へ参加し観光客の誘致、増客につなげた。(国内商談会: 5 回、海外商談会: 1 回(香港)、クルーズ客船商談会: 1 回)

●観光動態位置情報調査の分析や「ことりっぷ(旅行雑誌)」作成(10 月)、インバウンド向けの PR 動画や施設紹介サイトの作成(10 月)を行った。

(3) 産業人材の育成・確保 (商工業分野と重複)

①雇用支援、企業支援のための情報発信、情報入手の場(拠点)の整備

●支援事業について、市 HP へ掲載、企業交流会での説明や企業訪問により周知を図った。

●産業人材育成事業の申請が 2 件。(目標 5 件)(補助対象事業拡大で利用増加に繋がっている)

●未来人材育成奨学金返還助成支援事業(目標 10 人)およびインターンシップ支援事業(目標 10 件)は、問い合わせはあったが申請はなかった。

●香南市緊急融資保証料補給金事業において、10 件の利用実績。

●中小企業者の生産性向上支援事業は 8 件の利用実績。(対象設備となる固定資産税率を 3 年間ゼロとする)

**2. 課題と今後の取組**

(1) 6次産業化による地産地商の徹底

①地産地商の拠点(直売所)の機能拡充

●天然色市場の管理者を早急に決定し、地場産品や加工品を販売し、集客を行う。やすらぎ市、あぐりのさとにおいては、引き続き地場産品を活かした加工品の販売や一層の PR を行い、集客数の増加及び売上増加につなげる。

②地域内での創意工夫によるコミュニティビジネスの支援

●現在開発中のオレンジットの商品開発に一層取り組む。



(2) 観光拠点形成とネットワーク構築

①資源の再発見(価値化・付加価値化)

●三宝山の観光拠点化については、持続性や採算性などの観点から考えた時、現在の基本計画の整備計画をそのまま進めることは困難であると判断。山頂については、運営事業候補者のうちの一角が、一体的な開発を検討中。議論してきたコンセプトやターゲットなどは今後も生かしながら、運営事業候補者がエリア全体での観光拠点化に参画していただけるよう調整を行う。

●ヤ・シィパーク活性化協議会での協議を継続し、ランドデザイン及び整備計画を年度内に策定し、それを基にして、施設や動線等の整備を図る。

②観光・交流の場づくり(地域住民参加)

●祭りやイベントの周知徹底を行い、更に地域住民の参加及び交流人口拡大につなげる。

③観光旅行会社(企画)とのタイアップによる複数観光ルートの構築

●高知県観光説明会(商談会)等に参加し、旅行会社へのセールスを行い、香南市の知名度アップを図る。引き続き、各観光名所や地元住民等と連携した体験モニターを実施し、市の魅力発信や集客数拡大を図る。

●また、旅行業の資格を活用した取り組みや台湾人の興味等をリサーチするために、台湾人による現地視察などを実施する。

④物部川流域 3 市での観光振興

●子育て家族層に加え、インバウンド向けの事業を実施するとともに、6 次化関連の事業へも着手する。

●インバウンド対策として、各施設のハード・ソフト両面での調査を実施し、改善点の洗い出しを行う。

●6 次化関連事業として、3 市内の団体などが開発を進めている商品のテストマーケティングを行う。

●物部川 DMO 協議会で旅行業を取得するため法人格の取得などの準備を進め、旅行業事業の展開に取り組む。

●関係施設等の広報担当者を開催し、広域組織として効果的な情報発信や施設との連携方法等協議を行い、情報発信の強化に取り組むとともに、引き続き、全国的にも知名度のある情報誌「ことりっぷ」や SNS を積極的に活用し、継続的に情報発信を行う。

(3) 産業人材の育成・確保 (商工業分野と重複)

①雇用支援、企業支援のための情報発信、情報入手の場(拠点)の整備

●引き続き広報活動を積極的に行う。なお、未来人材育成奨学金返還助成支援事業は、助成対象区分を拡充し、創業者・新規就業者への支援を一層図っていくが、香南市インターンシップ支援事業は、企業のニーズに合った補助事業ではないので来年度より事業は廃止予定。

●香南市緊急融資保証料補給金事業と中小企業者の生産性向上支援事業は、引き続き推進していく。

**平成 31 年度の新たな取組**

**NEW** ①自然体験型観光資源強化事業としてヤ・シィパークランドデザインを基にした施設や動線等の再整備を図る。

**NEW** ②DMO 協議会が旅行業を取得し、3 市の観光資源を生かした旅行商品の造成及び販売に取り組む。



**基本目標 2： 新しい人の流れをつくる**

基本的方向： (1) 移住のためのしくみづくり

- 概要  
目的
- 情報発信や移住相談を推進します。
  - 若者の出会いの機会や情報交換ができる場づくりや交流事業を支援します。
  - 地域内で経済の好循環を生み出す取組みを推進します。
  - 県と連携した取組みを推進し、また「移住フェア」などを活用して移住の促進を図ります。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H30)	H31 年度末の目標
社会増減	社会減	実績値 人 目標値 社会増 99 人	社会増 120 人以上
県外からの移住者	3 組	実績値 組 目標値 5 組	20 組以上

**【直近の成果 (アウトカム等)】** 社会増 86 人 (転入 801 人、転出 715 人) ※住民基本台帳  
H30 年 11 月末 県外からの移住者 18 組 (29 人) ※移住相談窓口を通して県外より移住

**1. 取組状況 (H30 年度)**

平成 30 年 11 月末現在

H30 年 11 月末現在で、86 人の社会増となっている。また、県外からの移住者は、18 組 29 人が移住相談窓口を通して県外より移住を行っており、H28 年 9 月からの移住相談員配置等の効果がでている。



(香南住む〜ず)

**(1) 移住・定住促進のためのしくみづくり**

**①「香南市を知って、好きになってもらう」魅力、多様な情報の発信**

- 移住応援ガイドブック (香南住む〜ず) を各種移住フェア等の説明会で活用。
- 移住のHP「香南住む〜ず」のアクセス数は 47,058 回と、昨年度上方修正した目標値 5,000 回を大きく達成している。また、昨年度完成の移住促進プロモーションビデオもHPなどで一般公開中。

**②若年層の交流・情報交換やイベント開催**

- ボランティア団体 (よりあいにこ家) が「香南市恋い・めぐりあい応援事業費補助金」を活用し、「出会い・結婚の窓口相談」を開設 (利用者 139 名)。また、市主催で婚活セミナーを開催 (参加者 12 名)。
- 広域的な出会いの機会の提供や、結婚を希望する独身者に対する支援等を目的として香南市、香美市、南国市、安芸市の 4 市で構成される「高知中央東部地区少子化対策連絡協議会」へ参加。

**③産官学連携、人材育成による暮らしと産業が調和した自立地域への支援**

(基本目標 4 の集落活動センター小さな拠点整備と同記載)

- 西川地区集落活動センターでは今年度より 2 つの部会 (夢+支え合う・集う) に再編成し、それぞれが活動計画を立て取り組みを進めている。また、高知大学地域協働学部の学生も受け入れて、新鮮なアイデアでさらに地域を元気にしている。

夢部会	ジャム班	西川みかんジャムの販路拡大として、ふるさと納税返礼品として活用
	サロン班	コミュニティ活性化を図るイベントを開催 (バーベキュー・PPバグ・流しそうめん・防災フェスタ) 高知大学主催でイベントを開催 (ピザ作り・BBQ・竹灯籠作成と竹灯籠イベント)
集う部会		花公園の手入れ・葉の花種まき、アサギマダラマーキング大会を開催 西川地区の紹介パンフレットを作成中 (3 月完成予定)

**④移住促進**

- 香南市ウェルカム移住・定住促進事業として、中山間地域をモデル地域 (香我美町西川地区) に移住希望者向けのお試し滞在住宅を 1 棟整備 (利用料 15,000 円/月) し、H30 年 3 月から 3 組 4 人が利用し、現在も利用中。その内、1 組 2 人が移住に至る。また、同事業を拡充し、H28 年 11 月から市内全域を対象として空き家バンクの設置を行い、目標 20 棟に対し 28 棟の登録。28 棟の内 12 棟が売買、賃貸の契約済で、物件には空き家と分かるようにマークを掲示。
- 本年度新規事業の、空き家バンクへの登録を条件とした空き家改修補助は 2 件の実績。(目標 2 件)
- 移住者への発信方法を見直すために、H30 年 1 月から市への転入・転出者に窓口アンケートを実施し、H29 年度の転入・転出の理由や移住理由などの分析を実施。
- 窓口や電話、イベント等での新規移住相談は 130 件。なお、イベントは県外移住相談会等に 3 回参加。
- 地域おこし協力隊として現在 8 人 (西川集落活動センター・鳥獣被害対策・移住専門相談員・6 次産業化・サイクルツーリズム・ふるさと納税・農業担い手・ヤ・シーパーク周辺活性化) を雇用し、各分野で地域が抱えている課題の解決に向けた活動に日々奮闘中。本年度の募集は終了。
- 本年度新規事業の、香南市で働きながら暮らしを体験する「こうなんワーカーリレー」の受入は 11 月末で 0 件。



**2. 課題と今後の取組**

高知県等が主催する県外移住相談会への参加をはじめ、広域で連携した移住ツアーなど、移住者を呼び込む事業を実施していく。また、二段階移住の取り組みや他の分野 (産業・子育て・観光など) との連携を図り、一層移住・定住の仕組みづくりを進める。

**(1) 移住・定住促進のためのしくみづくり**

**①「香南市を知って、好きになってもらう」魅力、多様な情報の発信**

- 移住応援ガイドブックの活用及びHP「香南住む〜ず」の内容を充実させ、飽きさせない市の魅力発信を行う。

**②若年層の交流・情報交換やイベント開催**

- 継続して情報交換やイベント開催および支援に取り組む。また、市内の各団体等に対し、HPや広報を活用し補助事業の周知徹底を図るとともに、「高知で恋しよ!! 応援サイト」の応援団への登録を推進する。
- 「高知中央東部地区少子化対策連絡協議会」での情報共有及び、各市で開催されている婚活セミナー・イベント等の市民への情報提供を行い広域的な出会いの場の提供を図る。

**③産官学連携、人材育成による暮らしと産業が調和した自立地域への支援**

- 西川地区にとっても学生の新鮮なアイデアや意見に刺激を受けながら、各部会の事業計画に活かしたり、活動作業の手助けになったりと地域が活性化している。
- 高知大学との連携が今年度で終了となる。これまでの取り組みの継続と新たな産官学連携を検討していく。

夢部会	ジャム班	みかんジャムの販路拡大と新たな商品開発に取り組む。
	サロン班	高齢者の生きがいがづくりや三世代交流など参加しやすい事業を計画し、引き続きコミュニティ活性化を図る。
集う部会		花公園等のイベントPRや交流人口を増やすきっかけにするためH30 年度に作成した西川地区の紹介冊子 2,000 部を県内外へ配布。また、花公園の整備活動資金としてH31 年 3 月開催の花祭りで来場者に協力金 200 円の依頼と植樹祭の継続実施。

**④移住促進**

- お試し住宅は、引き続き利用促進を図るとともに利用者の移住につなげる支援、フォローを行う。また、空き家バンクの登録は、件数の増加に向けた掘り起こしのため、継続して活用可能な空き家調査を行う。
- マッチング支援及び企業支援として、東京圏から移住して起業・就業した者に移住支援金を給付し、就業・起業者の掘り起こしと東京圏からのUI ターンの促進及び地方の中小企業等の担い手不足対策に取り組む。
- 空き家改修補助は、よりスムーズな空き家住宅の提供ができるように、空き家の荷物処分と軽微な修繕はマッチング (利用契約成立) 以前でも行えるなど、活用しやすい補助金内容に見直しを行う。
- 窓口アンケートを継続して行ない、年度末には H30 年度のデータ分析を実施し、移住者への発信方法や新たな施策の検討につなげる。
- 県外移住相談会等 (年度内にあと 3 回予定) に積極的に参加する。また、れんげいこうち (高知市) や近隣市 (南国市、香美市) と連携した広域的な取り組みを継続する。
- 地域おこし協力隊は、来年度に向けて 12 月より 4 人募集中。(農業担い手 (2)・マルシェ・ツ (1)・農業振興・地産地消 (1))
- こうなんワーカーリレーは 12 月以降に 2 件が決定しており、12 月と 1 月に受入を行う。

**平成 31 年度の新たな取組**

- NEW** ①空き家改修事業費等補助金の対象事業のうち、荷物処分等支援事業と軽微な修繕事業をマッチング (利用契約成立) 前に活用可能とするよう検討。
- NEW** ②高知県と協働して地方創生移住支援事業に取り組み、東京圏からの就業・起業者の掘り起こしを図る。

<b>基本目標 3： 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる</b>	
<b>基本的方向：</b> (1) 人生をトータルでサポートする体制づくり (2) 子ども、子育て支援・環境の充実支援	
<b>概要</b>	○香南市人生支援計画に基づき、若者の出会いの場づくりや子どもを安心して生み育てられる環境づくりなど、市民の人生をトータルでサポートする行政の体制づくりを目指します。 ○家庭・地域・学校の連携・協働を進めることで子どもから高齢者まで様々な人が参加・交流し、地域を活性化させ、子育てを中心とした地域社会のつながりの再生を促進します。安心して結婚・出産・子育てができる環境を整備します。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H30)	H31 年度末の目標
婚姻件数	144件	実績値 129件 目標値 150件	154件
合計特殊出生率	1.44	実績値 目標値 1.54	1.60

**【直近の成果 (アウトカム等)】** H30 年 11 月末  
 婚姻件数 (人口動態調査) ※H29 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの届出件数  
 合計特殊出生率 (住民基本台帳) ※年度末集計

## 1. 取組状況 (H30 年度)

平成 30 年 11 月末現在

婚姻件数は 129 件で、目標値 (150 件) には至っていない。人口動態調査が根拠となり前年の暦年数値となるが、近年ではもっとも少ない件数である。また、合計特殊出生率は年度末の公表となる。

### (1) 人生をトータルでサポートする体制づくり

#### ① ライフステージに応じた切れ目のない支援

- 人生支援計画分野別部会 (幼年就学期・成年熟年期・高齢期) を新たに設立。世代に応じた施策について検討・協議を行い、人生支援計画策定委員会に事業の提案を行った。
- 人生支援計画策定委員において、新たな事業・拡充事業について協議。(目標 3 件)
- 高知家健康パスポートを利用した、香南市のポイント制度「こうなん健康チャレンジポイント」の実施。パスポート発行者数は、11 月末現在で 451 人。(H28 年 9 月からは 2,098 人)。  
香南市ギフトカタログで使用できるクーポン券を 861 枚 (延 242 人) 発行。
- 住居や引越費など結婚に伴う新生活を経済的に支援する、結婚新生活支援事業は 5 件の実績 (目標 10 件)。

#### ② 若者の出会いの場づくり

(基本目標 2 の若年層の交流・情報交換やイベント開催と同記述)

- 出会いの場の開催として「香南市恋い・めぐりあい応援事業費補助金」を活用し、ボランティア団体 (よりあいにこ家) が「出会い・結婚の窓口相談」を開設 (利用者 139 名)。また、市主催で婚活セミナーを開催 (参加者 12 名)。
- 広域的な出会いの機会の提供や、結婚を希望する独身者に対する支援等を目的として、香南市・香美市・南国市・安芸市の 4 市で構成される「高知中央東部地区少子化対策連絡協議会」へ参加。



### (2) 子ども、子育て支援・環境の充実支援

#### ① 子育てを支援する地域の育成

- 学校支援地域本部事業は積極的に導入を進めており、設置数 (7 校) も目標値どおり。

#### ② 子育て施策の充実

- 新生児・乳児家庭 (生後 4 ヶ月までの乳児) への訪問は順調に実施し、訪問率は 96.9% となる。長期里帰り後の訪問実施や家庭の希望により来所対応を含めると 100% 面接している。
- 地域子育て支援センターの利用者増加を目指し継続的に事業に取り組んでいるが、利用者 (親子) は 2,942 人となっており、目標 (6,400 人) 達成は難しい状態である。
- 市HPの子育て情報サイト「香南キッズ (子育て情報サイト)」へのアクセス数は 3,911 件 (目標 5,000 件)。昨年度からメルマガ配信内容に「エプロンだより」と「すこやか通信」を入れ内容の充実に努めており、順調に事業を実施中。
- 香南市ファミリーサポートセンター事業の会員数は 64 人で目標数値 (80 人) は達成できていない。  
(おねがい会員 37 人、まかせて会員 26 人、両会員 1 人、活動回数 120 回)
- 不妊治療の助成として、一般不妊治療費助成事業 (保険適用外の人工授精に係る費用の助成) を実施。年度末に申請は伸びる傾向にあるが、現在は 4 件に助成。(問い合わせ 9 件)

#### ③ 多様な保育事業・放課後児童クラブの拡充

- 保育所での子ども一時預かりを継続して実施。預かり数は延 781 人 (目標 838 人) で、年度末には目標を上回る利用者数となっている。(香我美おれんじ、夜須、赤岡の各保育所)  
また、H29 年度から香南市立の全幼稚園でも「預かり保育事業」を実施。預かり数は延 16,211 人。
- 放課後クラブの利用は 364 人 (年間の平均月利用者数) で概ね計画どおりに事業を実施。(目標 385 人)

## 2. 課題と今後の取組

引き続き、人生支援計画を柱として、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるための施策を展開する。婚姻件数および合計特殊出生率の向上を図り、人生をトータルでサポートしていく。

### (1) 人生をトータルでサポートする体制づくり

#### ① ライフステージに応じた切れ目のない支援

- 引き続き、人生支援計画推進分野別部会を開催し、部会ごとに世代に応じた施策の検討・協議を行う。また、各世代で取り組んでいる事業の進捗状況を管理していく。
- 人生支援計画の通常施策・重点施策の進捗状況の管理と、事業の充実や新たな事業の提案を行う。
- 広報や研修会を利用し「健康チャレンジポイント」の周知と市民の健康意識の向上と健康行動の促進を図る。
- 婚姻届提出時や個別案内を行なっているが、更なる周知徹底が必要。定期的に未申請者に対し個別案内を行なうとともに、市広報誌や市HP等により周知徹底を図る。

#### ② 若者の出会いの場づくり

- 継続して情報交換やイベント開催および支援に取り組む。また、市内の各団体に対し、「高知で恋しよ!! 応援サイト」の応援団への登録を推進する。
- 「高知中央東部地区少子化対策連絡協議会」での情報共有及び、各市で開催されている婚活セミナー・イベント等の市民への情報提供を行い、広域的な出会いの場の提供を図る。

### (2) 子ども、子育て支援・環境の充実支援

#### ① 子育てを支援する地域の育成

- 校長会等で学校の取り組みを紹介し、計画どおり導入校を増やす。

#### ② 子育て施策の充実

- 引き続き、乳児家庭訪問はできるだけ生後 1 ヶ月までに、遅くとも生後 4 ヶ月までに行う。
- 地域子育て支援センターは、H31 年度に総合子育て支援センターとして開設予定。これまでの子育て相談に加えて、病後児保育や子ども発達相談などサービスの充実が図れる事業内容や施設整備を行う。
- 子育て情報サイト「香南キッズ」の周知を今まで以上に多くの場面で行う。  
また、新たな取り組みとして、Line を活用した情報発信の検討を行う。
- 年度内にまかせて会員登録へ向けた講習会を実施する。また、受講者の発掘や新規会員の登録が行われるよう受講者への会員登録依頼を呼びかける。また、他市と取り組みの情報収集・交換を行い、対策をたてる。
- 不妊治療費助成の周知を行うとともに、妊娠適齢期や不妊症等に関する知識の普及啓発を行う。また、助成要件を拡充し、特定不妊治療費へ上乗せ助成を行い、経済的負担の軽減を図る。

#### ③ 多様な保育事業・放課後児童クラブの拡充

- 一時預かりのニーズは増加しており、今後も受入体制を整えていく。
- 概ね計画通りに事業実施できており、今後も受入体制を整えていく。

## 平成 31 年度の新たな取組

- 拡充** ① 就園援助費 (幼稚園給食費) の要件を拡充する。(準要保護世帯も対象)
- 拡充** ② 特定不妊治療費への上乗せ助成を実施する。(県補助に市単独補助を上乗せ)
- NEW** ③ LINE を活用した情報発信 (子育て・健康増進など) を検討していく。
- 拡充** ④ 医療機関送迎サービスの対象者拡大と高齢者の交通手段についての検討会 (バス検討委員会) を開催する。



基本目標 4 : 時代に合った地域をつくり、地域の連携により安心な暮らしをまもる	
基本的方向 : (1) 協働のまちづくり推進 (2) 災害に強いまちづくり	
概要 目的	○地域コミュニティの維持や活性化を促進する、地域の仕組みづくりを支援していきます。 ○診断士を派遣し診断、耐震化のための工事費に対する補助金など、個人住宅の耐震化を促進するとともに、各地域の防災体制づくりのリーダー育成の研修など、地域の自主防災組織づくりへの支援、災害時の地域の支え合い体制の強化を図ります。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H30)	H31 年度末の目標
自治会結成率	協議会 47%	実績値 % 目標値 68%	100%
	自治会 61%	実績値 % 目標値 95%	100%
自主防災組織結成率	89%	実績値 % 目標値 94%	100%

**【直近の成果 (アウトカム等)】** 協議会 10/全 19 組織 (53%)・自治会 86/全 96 組織 (90%)  
H30 年 11 月末 自主防災組織 13,846 世帯 (加入世帯) /14,891 世帯 (全世帯) (92%)

## 1. 取組状況 (H30 年度) 平成 30 年 11 月末現在

協議会の結成数は 10 組織 (結成率 53%)、自治会も 86 自治会 (結成率 90%) と昨年度末から変更なし。自主防災組織については、本年度 1 組織が新たに設立し、102 組織 (全 115 組織) となった。

### (1) 協働のまちづくり推進

#### ① 住民との情報交換

- 今年度からこれまで以上に地域に寄り添ったものにするため開催方法を見直し、市主催と地域主催の地区懇談会を開催し、住民と情報交換を実施。  
市主催分は 5 町 5ヶ所で開催 (4/13~19) し、市民 148 人が参加。  
地区主催分は要望のあった 8 箇所の自治会・協議会で開催 (5/27~9/15) し、市民 145 人が参加。
- 住民が学べる機会を増やすことを目的として、9 団体 (172 人) の自治会や協議会、各種団体等を対象に、市職員が講師となり香南市出前講座を開催。(ごみ出し・健康長寿・応急手当など)

#### ② 地域活動の支援体制強化

- 香南市地域活性化総合補助金事業は、10 協議会・37 自治会に補助金を交付。自治会等では補助金を活用し、自治会活動を順調に実施。  
昨年度に引き続き、自治会等の役員を対象にした「香南市まちづくりセミナー2018」を開催 (9/29)。「地域で取り組む健康イベント」をテーマに、健康に関する講座や「高知家パスポート」の活用方法について学ぶ。(2 協議会と 8 自治会から 27 人が参加)
- 人生支援計画高齢期部会のなかで、生活支援サービスは行政だけの取り組みではなく、行政と住民が一緒に考えて取り組んでいくことや住民主体の取り組みの研修会の企画が提案される。

### (2) 災害に強いまちづくり

#### ① 耐震化の促進、災害時備蓄品整備の充実

- 住宅所有者の負担軽減のため木造住宅耐震設計補助金を昨年度より 10 万円上乘せ (合計 305,000 円) し、耐震化を進めている。市広報や自主防災組織研修会などで制度の PR を実施し、74 件の耐震診断を実施。(目標件数 120 件)
- 備蓄倉庫について、昨年度野市町 (こうなん給食センター西側) に整備を完成し、備蓄品の整備に努めている。なお、備蓄について食料、水などの本年度分整備は計画通り整備中。

#### ② 自主防災組織の設立・活性化

- 自主防の活性化について、県主催のリーダー育成研修、防災士研修、シンポジウム等への各種参加案内を通知している。れんけいこうちの取り組みとして高知市と連携して行っているが、研修会には 10 組織しか参加できてなく、目標達成 (47 組織) には至っていない。

#### ③ 災害時における地域の支え合いづくり

- 避難行動要支援者の対象要件見直し整理を行い、再度同意の照会を実施 (同意回収率 55.1%)。個別計画の作成は 3 件であり、目標達成は困難な状態である。

#### ④ 消防・防災対策の強化

- 県下一斉の避難訓練に合わせ、市の総合防災訓練を夜須中学校において実施 (11/4)。参加者は目標人数 7,100 人に対し 4,394 人であった。  
また、津波浸水区域 (指定緊急避難場所 55 箇所) において、避難誘導標識の整備を昨年度から取り組んでおり、本年度は整備箇所の実施設計を計画通り発注済。



## 2. 課題と今後の取組

目標値を目指して自治会や協議会、自主防災組織設立の取り組みを進める。未設立地域では、住民説明会などを通じ、設立に向けた話し合いを担当課および地区担当職員と一緒に進める。

### (1) 協働のまちづくり推進

#### ① 住民との情報交換

- 地区懇談会での意見や要望、提案は、内容を確認のうえ要点をまとめ、地区懇談会カルテとして主要な公民館等に質問内容・当日回答・後日対応などを記載したものを設置している。また、事業担当課と共有し、緊急度や課題を検討して上で、解決に向けて取り組む。
- 引き続き、香南市出前講座の周知を図る。また、講座内容の充実も図り、市民の学びに対応できる職員の育成にも努める。

#### ② 地域活動の支援体制強化

- 引き続き、香南市地域活性化総合補助金事業の活用を周知し、自治会活動の支援を行う。また、自治会等の役員会に担当課や地区担当職員として行政職員も参加し、活性化の助言等を行う。
- 新たな取り組みとして、住民主体の移動・外出支援について紹介する研修会を開催し、公的サービス以外の移手段の方法を知っていただき、活動の受け皿づくりの話し合いを進めていく。

### (2) 災害に強いまちづくり

#### ① 耐震化の促進、災害時備蓄品整備の充実

- 引き続き、制度の周知を行うとともに、耐震診断後の改修工事まで進むよう、住宅耐震化の重要性を周知していく。
- 引き続き、備蓄品等の整備を行う。

#### ② 自主防災組織の設立・活性化

- 引き続き、各種研修会への参加案内やれんけいこうちでの取り組みを活用しながら、防災研修への参加機会を増やし啓発していく。

#### ③ 災害時における地域の支え合いづくり

- 引き続き、避難支援等関係者への名簿の提供と定期的な更新を行うとともに、個別計画の作成に地域の自主防災組織や協議会、自治会及び民生委員児童委員の協力を得ながら取り組む。

#### ④ 消防・防災対策の強化

- 一層住民に対し、訓練の重要性や防災意識の高揚を図る。  
避難誘導標識の整備について、本年度の実施設計を元に H31 年度に整備を行う。

## 平成 31 年度の新たな取組

- NEW** ① 住民主体の受け皿づくり事業として、住民主体による高齢者の移動・外出支援の研修会の実施。

基本目標 4： 時代に合った地域をつくり、地域の連携により安心な暮らしをまもる

※数値目標は、資料 1-9 と同じため省略

基本的方向： (1) 交流人口拡大 (2) 大学との連携

概要 目的 ○地域と協働し、活動拠点としての集落活動センターの運営体制や組織の強化を図ります。また、歴史・食・体験などの地域資源活用など、交流人口の拡大のための拠点づくりや強化を進めます。  
○香南市の中山間地域の再生と持続可能な地域の構築に向けて、地域の活性化と振興に寄与する事業推進のため大学と連携し、多様な分野で事業に取り組みます。

## 1. 取組状況 (H30 年度)

平成 30 年 11 月末現在

### (3) 交流人口拡大

#### ①集落活動センター (小さな拠点整備)

(基本目標 2 の産官学連携、人材育成による暮らしと産業が調和した自立地域への支援と同記載)

- 西川地区集落活動センターでは今年度より 2 つの部会 (夢+支え合う・集う) に再編成し、それぞれが活動計画を立て取り組みを進めている。また、高知大学地域協働学部の学生も受け入れて、新鮮なアイデアでさらに地域を元気にしている。

夢部会	ジャム班	西川みかんジャムの販路拡大として、ふるさと納税返礼品として活用
	サロン班	コミュニティ活性化を図るイベントを開催 (ハーフマール・PPバッグ・流しそうめん・防災フェスタ) 高知大学主催でイベントを開催 (ピザ作り・BBQ・竹灯籠作成と竹灯籠イベント)
集う部会		花公園の手入れ・葉の花種まき、アサギマダラマーキング大会を開催 西川地区の紹介パンフレットを作成中 (3 月完成予定)

- 年度内の新たな集落活動センターの設立は困難だが、現在設立に向け 3 地区と協議中。  
「岸本地区」・・・ 立上げに向け準備会に参加。11 月からは集落支援員を雇用し、H32 年度の設立に向け協議中。  
「みどり野地区」・・・ センター準備会立上げに向け、青年部を中心に検討中。今後は、準備会組織について「まちづくり協議会」で検討し内容を詰めていく。  
「山南地区」・・・ H29 年 12 月に集落活動センター設立に向けたアンケートを実施し、アンケート結果を集計。アンケート結果から直ぐに取り組める事業を地域住民との WS で絞り込み、そのひとつとして、「まちづくり協議会」ですぐに取り組める「子どもや高齢者の見守り活動」に関する仕組みや事業について検討を行った。

#### ②地域団体の活動促進、支援充実

- 地域活動団体の育成に向けた取り組みを行っているが、今年度の「市民主役のまちづくり支援事業」の補助金の交付団体はなし。

#### ③歴史・食・体験等による交流人口の拡大

- 観光施設連絡会 (香南市観光クラスター協議会) を 2 回開催し、上半期の入込数や観光客の動向、イベントなどの情報共有を行った。  
観光客入込数は目標 154.5 万人に対し 130.8 万人となっている。  
(香南市 605,953 人 香美市 228,661 人 南国市 476,946 人)  
物部川流域 3 市での取り組みと重複するが、デジタルスタンプラリーや大学との連携による周遊ツアー造成に向けたモニターツアーの実施、広域観光パンフレットを作成。

### (4) 大学との連携

#### ①大学との連携

- H27 年度から高知大学地域協働学部と連携し、上記①に記載のとおり、西川地区集落活動センターでの活動を通じた学びの場の提供を行っており、延 94 人の学生が参加し活動を行っている。学生の主催事業では、ピザ作り体験や BBQ、夏祭りで竹灯籠の作成を実施。現在、西川地区の PR パンフレットを作成中。
- 平成 28 年度から高知大学と連携し、高知大学出前公開講座を開催。今年度も 9 月より全 5 回で開催し、総合戦略基本目標 4 「時代に合った地域をつくり、地域の連携による安心な暮らしをまもる」テーマに、協働や連携によるまちづくりや地域活性化・地域振興等についての講座を開催し。述べ 126 名の受講生が参加。

## 2. 課題と今後の取組

### (3) 交流人口拡大

#### ①集落活動センター (小さな拠点整備)

- 西川地区にとっても学生の新鮮なアイデアや意見に刺激を受けながら、各部会の事業計画に活かしたり、活動作業の手助けになったりと地域が活性化している。  
高知大学と西川地区の連携が今年度で終了するので、これまでの取り組みの継続と新たな産官学連携を検討していく。

夢部会	ジャム班	みかんジャムの販路拡大と新たな商品開発に取り組む。
	サロン班	高齢者の生きがいづくりや三世交流など参加しやすい事業を計画し、引き続きコミュニティ活性化を図る。
集う部会		花公園等のイベント PR や交流人口を増やすきっかけにするため H30 年度に作成した西川地区の紹介冊子 2,000 部を県内外へ配布。また、花公園の整備活動資金として H31 年 3 月開催の花祭りで来場者に協力金 200 円の依頼と植樹祭の継続実施。

- 集落活動センター設立に向けて地元と協議を行っていく。また、継続して説明会や関係団体の育成に努める。  
さらに、活動拠点施設や地域素材の掘り起こし、特産品試作研究、耕作放棄地の活用など集落活動センターに繋がる事業に対して、集落の活力づくり支援事業費補助金を新設し、地域住民がチャレンジしたいことや課題解決に向けた取り組みを応援する。

#### ②地域団体の活動促進、支援充実

- 引き続き交流人口の拡大に寄与する活動団体の掘り起こしや、事業の啓発等を行う。

#### ③歴史・食・体験等による交流人口の拡大

- 維新博の効果で一部観光施設への入込客数は増加したが、その施設から周辺観光施設等へ周遊させることが必要。各施設の情報共有とモデルコースの配布など宿泊施設と観光施設をつなぎ周遊していただく施策を展開する。また、Instagram やフェイスブック等の SNS を活用した情報発信にも取り組む。



### (4) 大学との連携

#### ①大学との連携

- 年度内には西川地区の PR パンフレットを作成。  
なお、高知大学と西川地区の連携が今年度で終了するので、これまでの西川地区集落活動センターでの取り組みの継続と新たな産官学連携を検討していく。
- 高知大学出前公開講座を継続して実施する。

## 平成 31 年度の新たな取組

- ①集落活動センターの設立準備支援として、集落の活力づくり支援事業費補助金を新設。